

過去の研究大会テーマ

2002年研究大会：

共通テーマ：国際紛争処理手続の多様化と国際法の統一性

座長：栗林忠男・慶應義塾大学教授

報告者：田中則夫・龍谷大学教授：「みなみまぐろ事件——国連海洋法条約の統一解釈への影響」

座長：薬師寺公夫・立命館大学教授

報告者：阿部浩己・神奈川大学教授：「重層化する国際法の実施過程と『人権戦略』」

報告者：岡田泉・大学教授：「国際刑事裁判所（ICC）と国内刑事管轄権——補完性原則の機能と限界」

座長：鳥居淳子・成城大学教授

報告者：奥田安弘・北海道大学教授：「外国人の子どもの人権と国内裁判所へのアクセス——扶養料取立システムの構築」

2001年研究大会：

共通テーマ：先端的企業活動と国際法

座長：広部和也・成蹊大学教授

報告者：位田隆一・京都大学教授

「生命科学の発展と国際法規範の変動」

座長：横山潤・一橋大学教授

報告者：小泉直樹・上智大学教授

「知的財産権保護のいわゆる属地主義について」

報告者：早川吉尚・立教大学助教授

「国際私法秩序に変貌を迫る電子商取引の拡大」

報告者：清水章雄・早稲田大学教授

「遺伝子組み換え生物の国際取引規制——カルタヘナ議定書とWTO協定」

2000年度研究大会：

共通テーマ：国家責任法の課題

座長：東寿太郎・津田塾大学教授

松井芳郎・名古屋大学教授：

「国際社会の構造と『国家の国際犯罪』概念」

座長：薬師寺公夫・立命館大学教授

兼原敦子・立教大学教授：「救済原則の一般化に関わる諸要因」

坂元茂樹・関西大学教授：「国家責任法と条約法の交錯」

道垣内弘人・東京大学助教授：「民法学者の見た国家責任法」

1999年度研究大会

共通テーマ：国際紛争処理手続の新たな動向

座長：竹本正幸・関西大学教授

基調報告：「ハーグ平和会議から百年—紛争処理法の回顧と展望」

中村洸・慶應義塾大学名誉教授

座長：あき場準一・日本大学教授

杉原高嶺・京都大学教授「国際司法裁判所と他の紛争処理手続との関係
—裁判所による他機関の決定の審査をめぐって—」

岩澤雄司・東京大学教授「WTO紛争処理手続の国際法上の意義」

山本和彦・一橋大学教授「国際倒産紛争処理手続の最近の動向とその意義」

1998年度研究大会

共通テーマ：多数国間条約の国内法化をめぐる問題点

座長：広部和也・成蹊大学教授「イントロダクション」

山田中正・早稲田大学教授「南極環境議定書と国内法」

斎藤誠・東京大学助教授「生物多様性条約の国内法化：公法体系の適合性と変容」

渡辺惺之・大阪大学「宇宙損害賠償条約と国内法：第三者損害賠償をめぐる国内法の整備」

1997年度研究大会

座長：奥脇直也・立教大学教授「イントロダクション」

小寺彰・東京大学教授「『域外適用』に関する国際法の評価視座—『管轄権アプローチ』から『主権アプローチ』へ—」

出口耕自・上智大学教授「ドイツにおける『域外適用』法理の展開」

長嶺安政・外務省条約局法規課長「実務における域外適用問題の最近の傾向」

野村美明・大阪大学教授「域外適用の政策と理論」